

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成26年9月解析分)

1 今月のピックアップ

(1) RSウイルス感染症が急増中です！！

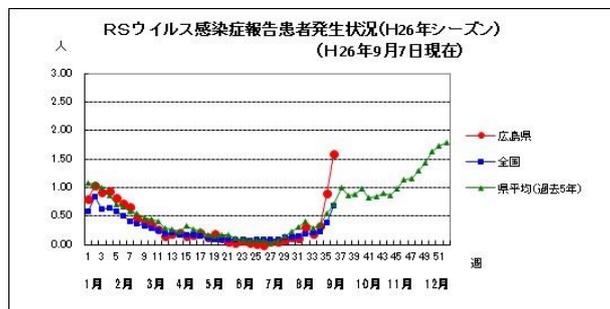
RSウイルス感染症は、例年11月から3月にかけて乳幼児を中心に流行します。今年は、例年よりも早く8月下旬から全国的に報告が増えています(広島県では、7月25人 → 8月122人と急増中です)。

RSウイルス感染症は、繰り返し感染しますが、かぜに似た症状で多くの場合軽症で治ります。しかし、感染力が強く、1歳未満の乳幼児の場合や先天性疾患、慢性肺疾患など基礎疾患を持つ小児の場合は重症化の恐れがあります。

かぜの症状が現れたら、症状では他の疾患と区別がつきにくいので、早めに医療機関を受診されることをお勧めします。

なお、詳しい情報は、こちらのホームページを御覧ください。

○厚生労働省「RSウイルスに関するQ&A」 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs.qa.html>



(2) インフルエンザの予防には、ワクチン接種を受けましょう！！

これからインフルエンザの流行シーズンを迎えるに当たり、重症化防止及び予防には、インフルエンザのワクチン接種が手洗い・うがいの励行とともに最も有効です。

●接種するワクチン

A型(A(H1N1)pdm09, A 香港(H3N2))及びB型の株が混合された3価ワクチン

●留意事項等

- ◇ お近くの医療機関で予防接種を受けることができますので、事前に電話などで確認をして受けてください。
- ◇ 65歳以上の高齢者や60歳から65歳未満で心臓、腎臓又は呼吸器に重い病気がある方は接種費用の補助が受けられますので、お住まいの市町にお問い合わせください。
- ◇ ワクチン接種は多くの方々に重症化予防というメリットをもたらしますが、接種後、腫れや発熱などの症状が現れたりするなど、リスクを100%排除することはできません。
この点を御理解いただいたうえで、個人の選択により接種を受けるようお願いいたします。
- ◇ ワクチン接種による効果が出現するまでに2週間程度を要することから、流行が始まる前に早めの接種をお勧めします。

※ 予防接種の詳細については、お住まいの市町役場の予防接種担当窓口へお問い合わせください。

(3) デング熱が国内で発生しています(蚊に刺されないよう注意してください！！)

国内で海外渡航歴のないデング熱の患者(国内感染)が関東地域を中心に複数発生しています。

デングウイルスを媒介するヒトスジシマカは日本のほとんどの地域に生息しています。ヒトスジシマカの活動時期は概ね5月中旬～10月下旬です。

デングウイルスに対する特有の薬はありません。蚊との接触を避け、刺されないようにすることが重要です。

●予防方法

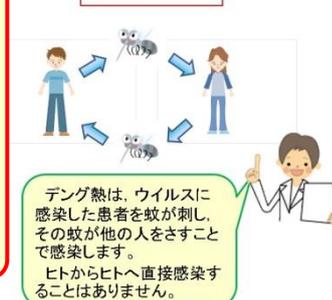
(屋内)

- ◇ 室内の蚊の駆除を心がける。

(屋外)

- ◇ 蚊の幼虫(ぼうふら)の発生源(水たまり)を作らないように注意する。
- ◇ 虫除け剤等を使用して蚊を寄せつけないようにする。
- ◇ 長袖、長ズボンを着用するなど、屋外の作業において、肌の露出をなるべく避ける。

感染経路は！



なお、詳しい情報は、こちらのホームページを御覧ください。

○厚生労働省「デング熱について」 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever.html

2 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成26年8月分(平成26年8月4日～平成26年8月31日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	10	0.02	0.07		11	ヘルパンギーナ	532	1.86	1.19	↓
2	RSウイルス感染症	122	0.43	0.38	↑	12	流行性耳下腺炎	165	0.58	0.65	↘
3	咽頭結膜熱	143	0.50	0.78	↘	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.02	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	228	0.80	0.68	↓	14	流行性角結膜炎	96	1.26	1.08	↗
5	感染性胃腸炎	997	3.49	3.04	↘	15	細菌性髄膜炎	0	0.00	0.02	
6	水痘	230	0.80	0.53	↘	16	無菌性髄膜炎	3	0.04	0.10	
7	手足口病	103	0.36	1.73	↗	17	マイコプラズマ肺炎	8	0.10	0.27	
8	伝染性紅斑	3	0.01	0.14		18	クラミジア肺炎	1	0.01	0.01	
9	突発性発しん	152	0.53	0.58	→	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	—	
10	百日咳	3	0.01	0.05							

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成26年8月分(8月1日～8月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	45	1.96	2.09	→	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	89	4.24	5.93	→
21	性器ヘルペスウイルス感染症	24	1.04	0.71	→	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	0.43	0.99	
22	尖圭コンジローマ	14	0.61	0.56	↘	26	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0.00	—	
23	淋菌感染症	30	1.30	1.00	↘	27	薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.10	0.26	

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

※ 薬剤耐性アシネトバクター感染症は、平成23年2月1日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

●急増疾患 RSウイルス感染症(0.09 → 0.43)

●急減疾患 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(1.75 → 0.80)
ヘルパンギーナ(4.05 → 1.86)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患、月報対象8疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～27	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	39	結核(39)〔西部保健所(7), 東部保健所(6), 北部保健所(3), 広島市保健所(14), 呉市保健所(3), 福山市保健所(6)〕
三類	7	腸管出血性大腸菌感染症(7)〔西部保健所(2), 広島市保健所(2), 福山市保健所(3)〕
四類	7	A型肝炎(1)〔広島市保健所〕, レジオネラ症(4)〔西部保健所(1), 広島市保健所(2), 福山市保健所(1)〕, 日本紅斑熱(2)〔東部保健所(1), 福山市保健所(1)〕
五類全数	9	ウイルス性肝炎(B型)(1)〔呉市保健所〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔呉市保健所〕, 急性脳炎(1)〔広島市保健所〕, 後天性免疫不全症候群(4)〔広島市保健所〕, 梅毒(1)〔福山市保健所〕, 麻しん(1)〔広島市保健所〕